

高齢者用肺炎球菌ワクチンの予防接種を受ける方へ（説明書）

小都市健康課

～よく読んでから予診票を記入しましょう～

1. 肺炎球菌について

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛沫感染します。日本人の約3～5%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされています。

肺炎球菌による肺炎は、成人の肺炎の25～40%を占め、特に高齢者で重篤化しやすい状況があります。肺炎球菌は、慢性気道感染症、中耳炎、副鼻腔炎、敗血症、髄膜炎などの原因になります。

2. 高齢者用肺炎球菌ワクチンについて

現在使用されているワクチンは、肺炎球菌の約90種類以上ある血清型の中で、頻度の高い23種類の肺炎球菌を型別に培養し、殺菌後に抽出、精製した莢膜ポリサッカライド（多糖体）を混合したものです。

3. 予診票の記入について

予診票は予防接種を受けるにあたって、医師にご自分の健康状態を伝える大切な用紙です。内容をよく読み、治療中の病気や飲んでいる薬など、もれがないように記入しましょう。また、心配なことがある場合は医師に十分相談しましょう。

予診票の下にあるご本人の署名は、医師の診察の結果を聞いてから記入します。

4. 高齢者用肺炎球菌ワクチン予防接種の副反応

- 注射の痕が赤くなったり、腫れたり、痛むことがある（2～3日で良くなる）
- 熱が出る（2～3日で良くなる）
- 稀に重篤な副反応として、アナフィラキシー様反応（ショック）や血小板減少、ギランバレー症候群、蜂巣炎様反応が報告されています。

※過去5年以内にこのワクチンを受けたことのある人が、短い期間で再接種した場合には、強い副反応がでるといわれているため、注意が必要です。

5. 予防接種後の注意

- 予防接種を受けた後30分間は急な副反応がおこることがあります。医師とすぐに連絡を取れるようにしましょう。（注射後24時間は体調に注意しましょう）
- 入浴は差し支えありません。注射した所を強くこすることはやめましょう。
- 接種当日はいつもの生活をしてかまいません。激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
- インフルエンザ等のワクチンを接種される際は、肺炎球菌ワクチンを接種後、1週間の間隔をあけて接種するようにしてください。

定期の予防接種により重篤な健康被害が発生した時には、予防接種法により発生した健康被害の救済が行われます。給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師、お住まいの市区町村の予防接種担当課へご相談ください。